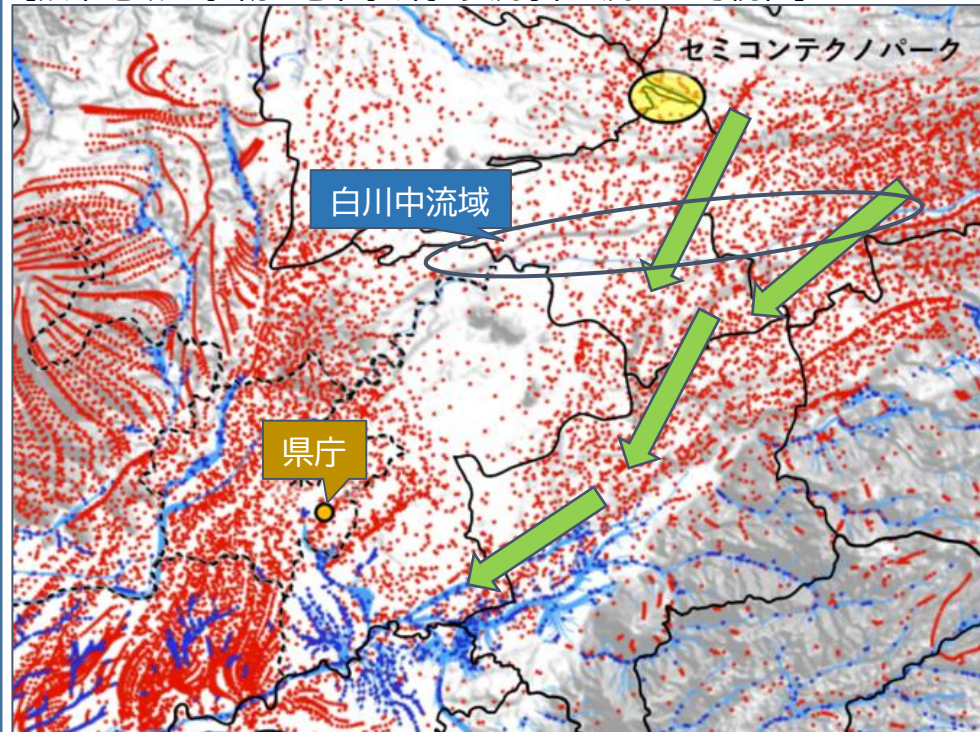


(4)地下水位の将来予測(環境立県推進課)

- ・県では、流域水循環シミュレーションモデル(GETFLOWS)を活用し、地下水等の流れを可視化するとともに、大規模取水や開発等による地下水の地域的・広域的な影響等を把握し、新たな保全対策の必要性や対策の効果等の検証を行っている。
- ・セミコンテクノパーク周辺における半導体関連企業の集積に伴う取水による中長期的な影響を予測したところ、局所的に地下水位が最大で1m程度低下する可能性があるが、熊本市等の下流域への影響はないとの結果であった。

【熊本地域の水(赤:地下水、青:表流水)の流れの可視化】



【取水による影響予測】



(条件)

- ・セミコンテクノパーク周辺における半導体関連企業の集積に伴う取水による影響(R3年度から約1,200万t増と推計)
- ・涵養量は実績ベースで算定(R3年度)
- ・土地利用は国土数値情報土地利用細分メッシュ(R3年度, 国土交通省)を使用

【評価】

熊本市等の下流域については、その豊富な賦存量に加え、上流域である白川中流域での涵養による効果もあり、取水による影響は見られなかった。他方、セミコンテクノパーク周辺では最大1m程度の地下水位の低下の可能性はあるが、この地域において地下水位の年間変動は5～10m程度あることを踏まえると、地下水が枯渇するような状況にはない。また、セミコンテクノパーク周辺より上流部分の水田湛水や有明工業用水の未利用水の活用を検討が進んでいることから、シミュレーション結果よりも影響を軽減することは可能。

しかしながら、セミコンテクノパーク周辺の開発がさらに進み、涵養域が減少することにより、シミュレーション結果よりも影響が拡大する可能性もあるため、地下水涵養に代わる対策として、取水量の増加を抑える予防的な対策を引き続き進める必要がある。

<令和7年度> 熊本地域 11 市町村と協働で「熊本地域地下水保全総合管理計画(令和8年度～12年度)」策定

※令和7年度実施予定の取組については、令和7年2月議会に関連予算を提案。